

磯田 文雄 教授

研 究 業 績

2024年3月24日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書（単）	『教育行政一分かち合う共同体をめざして』ミネルヴァ書房、全340頁	2014. 12
著書（単）	『新しい教育行政—自立と共生の社会をめざして』ぎょうせい、全297頁	2006. 4
著書（共）	『我が国の文教施策 学校教育の新しい展開—生きる力をはぐくむ』文部省編）大蔵省印刷局、1～120頁	1994. 12
著書（共）	「大学・高等教育関係行政機構」「政府財政補助」「大学病院」橋本鉦市・阿曾沼明裕編著『よくわかる高等教育』ミネルヴァ書房、2021年4月、84-85、152-153、160-161頁	2021. 4
著書（共）	「教育行政の原理」「文部科学省の組織と役割」「世界の教育行政」『新版よくわかる教育学原論』安彦忠彦、藤井千春、田中博之編、ミネルヴァ書房、192～195、200～201頁	2020. 5
辞典	『批判的教育学辞典』編集者：マイケル.W. アップル他、監修者：長尾彰夫他、監訳者：磯田他、明石書店	2017. 1
辞典	『新版・現代学校教育大辞典』（分担執筆、安彦忠彦他編）、2002年2月、ぎょうせい	2002. 2
辞典	『現代カリキュラム辞典』（分担執筆、日本カリキュラム学会編）、2001年行政	2001. 2
論文（単）	「権力の集中とその空洞化の中で進む既成事実への屈伏」日本教育行政学会第58回大会課題研究1、千葉大学、2023年10月15日	2023. 10
論文（単）	「政策・経営側から見た高等教育研究と専門家養成」高等教育研究第26集	2023. 8
論文（単）	「人類の歴史の大波—新しい学力観の検討に向けて—」日本カリキュラム学会第34回大阪教育大学大会自由研究発表、2023年7月8日	2023. 7
論文（単）	「高等教育政策は誰のためにあるか—政治権力の力学の中における高等教育の動態—」日本高等教育学会第26回大会自由研究発表、2023年6月1日	2023. 6
論文（単）	「人類の歴史の大波—キー・コンピテンシーの終焉—」アルカディア学報747、教育学術新聞、2023年5月10日	2023. 5

論文（単）	「学問による教育実践の省察と実践の改善に向けて—教育学と教員養成大学の復権を求めて—」愛知教育大学大学院・静岡大学大学院教育学研究科共同教科開発学専攻第13回教科開発学研究会 令和4年8月20日	2022. 8
論文（単）	「令和3年度研究開発学校の研究課題について—信頼される教育課程行政の復権を求めて—」日本カリキュラム学会第33回名古屋大学Web大会、2022年7月10日、全7頁	2022. 7
論文（単）	「第二次ベビーブームへの対応—日本の私立大学はなぜつぶれないのか？—」日本高等教育学会第25回大会自由研究発表、2022年5月29日、全5頁	2022. 5
論文（単）	「アジャイルガバナンスによる大学教育の質の向上」『IDE 現代の高等教育 2022年1月号』38~42頁	2022. 1
論文（単）	「アジアにおける市民性教育の限界」日本カリキュラム学会課題研究IV『民主主義と国家の現状と課題—市民性教育の在り方を考える—』第32回琉球大学Web大会、2021年6月27日、全12頁	2021. 6
論文（単）	「権力の集中とその空洞化の中で進む既成事実への屈伏—子ども庁の創設を視野に入れて—」日本カリキュラム学会自由研究発表第32回琉球大学Web大会、2021年6月26日、全6頁	2021. 6
論文（単）	「権力の集中とその空洞化が進む日本の行政機構と国立大学法人における学長のリーダーシップの強化—今日の国立大学では大学の自治がなくなってしまったのか？—」日本高等教育学会第24回大会自由研究発表、2021年5月30日、オンライン開催、全9頁	2021. 5
論文（単）	「分担管理原則と学校—新型コロナウイルス感染症がもたらした法の混乱—」日本カリキュラム学会第31回琉球大学Web大会自由研究発表、2020年6月28日、全14頁	2020. 6
論文（単）	「—法人複数大学方式の提案とその実態—令和の国立大学大合併の予兆か？—」日本高等教育学会第23回大会自由研究発表、2020年5月30日、東京家政大学、全2頁	2020. 5
論文（単）	「「創造表現活動」を設立したカリキュラムの可能性」香川大学教育学部附属高松中学校『未来を創造する学び』明治図書、8~13頁	2020. 4
論文（単）	「教育行政の敗北とその後に生まれるもの」生活教育 No. 852、28~33頁	2019. 12
論文（単）	「帝国」に対抗する教育の実践研究を求めて」日本デューイ学会紀要第60号、101~110頁	2019. 10

論文（単）	「「生きる力」はキー・コンピテンシーの先取りなのか」日本カリキュラム学会第30回大会自由研究発表、2019年6月23日、京都大学、全16頁	2019.6
論文（単）	「キー・コンピテンシーを超える教育を求めて—人格の完成を目指して（教育基本法第1条）—」日本道徳教育方法学会第35回研究発表大会シンポジウム、2019年6月8日、神戸市外国語大学、全17頁	2019.6
論文（単）	「カリキュラムの行政学的研究」日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム研究の動向と展望』教育出版、332～339頁	2019.5
論文（単）	「日本の国立大学法人の財務と大学の自治—財政による管理統制—」国立台湾師範大学評論2号、79～120頁	2018.12
論文（単）	「日本における大学の自治と改革—日本から大学がなくなる日—」国立台湾師範大学教育法学評論創刊号、1～29頁	2018.9
論文（単）	「日本の大学の自治と大学改革—日本から大学がなくなる日—」日本高等教育学会第21回大会自由研究発表、平成30年6月2日、桜美林大学、	2018.6
論文（単）	「学習指導要領の法的性格の変容—大綱的基準・イデオロギー・行政手続法—」中部教育学会紀要第18号、30～44頁	2018.6
論文（単）	「大学入試改革とキー・コンピテンシーを支える教育産業複合体」日本カリキュラム学会第29回大会自由研究発表、2018年6月30日、北海道教育大学旭川校、全11頁	2018.6
論文（単）	「学習指導要領の法的性格の変容」日本カリキュラム学会第28回大会自由研究発表、2017年6月24日、岡山大学、全12頁	2017.6
論文（単）	「国立大学第3期中期計画と国立大学の統廃合—法人化の目的（予算の削減と機能分化）の達成—」日本高等教育学会第20回大会自由研究発表、2017年5月27日、東北大学、全11頁	2017.5
論文（単）	「大学の機能分化と新たな国際協力の在り方—名古屋大学の事例」農学国際協力、名古屋大学農学国際教育協力研究センター、11～20頁	2017.3
論文（単）	「学問と職業訓練と大学」2016年6月26日、日本高等教育学会第19回大会自由研究、追手門学院大学、全8頁	2016.6
論文（単）	「戦後教員養成政策の変遷から見た教師教育の“高度化”」日本教師教育学会年報第23号、学事出版、82～90頁	2014.9
論文（単）	「地域社会と大学」北海道教育大学旭川校地域連携フォーラム実行委員会編『地域連携と学生の学び』共同出版、3～8頁	2013.3
論文（単）	「カリキュラム行政はどう変わったのか」『教育と医学』、	2006.1

	教育と医学の会、16～24 頁	
論文（単）	「理事の一年 文部科学省出身理事の立場から」『国立大学法人化の一年』IDE 現代の高等教育No. 475、52～55 頁	2005. 11
論文（単）	「「ゆとり教育」の見直しと「確かな学力」」田中統治編『確かな学力を育てるカリキュラム・マネジメント』教職研修、教育開発研究所、15～18 頁	2005. 5
論文（単）	「新しいファンディングと大学の対応」『大学ファンディングの新システム』IDE 現代の高等教育No. 465、54～59 頁	2004. 11
論文（単）	「「生きる力」をはぐくむ教育と特色ある学校づくり」安彦忠彦編『特色ある学校づくりとカリキュラム開発』ぎょうせい、52～62 頁	2004. 8
論文（単）	「地方分権一括法関係法令の整備を終えて」教育委員会月報 2000 年 5 月号、第一法規出版、2～10 頁	2000. 5
その他（単）	図書紹介、渡邊雅子「『論理的思考』の社会的構築」フランスの思考表現スタイルと言葉の教育」岩波書店、2021 年、『カリキュラム研究第 31 号』日本カリキュラム学会、2022 年 5 月刊行予定、87 頁	2022. 5
その他（単）	「国立大学どう再編するか—自治体の「組合」を応用」日経新聞、2017 年 10 月 2 日、朝刊、16 面	2017. 10
その他（単）	巻頭言『創る—2 領域カリキュラムで子どもが変わる！教師が変わる！』香川大学教育学部附属高松小学校、東洋館出版社、4～5 頁	2017. 1
その他（単）	「キー・コンピテンシーと大学」日本経済新聞、2016 年 8 月 29 日、朝刊、20 面	2016. 8
その他（単）	「コンピテンシーに基づく教育を超えて」巻頭言『教育展望』2015 年 12 月号、教育調査研究所、2～3 頁	2015. 12
その他（単）	「政治的教養と政治的中立」Voters No. 26、公益財団法人明るい選挙推進協会、2015 年 6 月 22 日、4～5 頁	2015. 6
その他（単）	「大学入試改革：その必要性和ねらい」「nippon.com」2015 年 3 月 3 日、3 頁	2015. 3
その他（単）	「『生きる力』の育成と学校力」香川大学教育学部附属高松中学校編『「未来志向科」で拓く新しい学び』ぎょうせい、6～9 頁	2012. 3
その他（単）	「東アジア共同体、地域主権と大学」日本薬剤師会雑誌、2011, March, vol. 631, 日本薬剤師会、1 頁	2011. 3
その他（単）	「科学するとは」『科学と工業』2009 年 9 月号、社団法人日本化学会、969 頁	2009. 9

口頭発表（単）	“ <i>The Great Waves of Human History</i> ”, 2024FGS University Presidents Forum, 2024年3月5日, 台湾 南華大学	2024. 3
口頭発表（共）	「高等教育行政の専門性とは何か—「官邸主導の政策形成の時代」における現状と課題」羽田貴史、林透、磯田文雄、小山竜司、日本高等教育学会第25回大会、2022年5月29日	2022. 5
口頭発表（単）	「文部科学省について」日本高等教育学会会長プロジェクト「高等教育政策の研究」第6回研究会、2022年3月27日、zoom会議	2022. 3
口頭発表（単）	「学習指導要領の法的性格の変容—大綱的基準のゆらぎ—」 「学習指導要領体制」科研2021年度全体会、2022年2月6日、zoom会議	2022. 2
口頭発表（単）	「権力の集中とその空洞化の中で進む既成事実への屈伏」日本高等教育学会会長プロジェクト「高等教育政策の研究」第3回研究会、2022年1月29日、zoom会議	2022. 1
口頭発表（単）	「豊かな経験に基づく道徳カリキュラム」日本道徳教育学会第96回（2020年度秋季）、令和2年11月29日、大会シンポジウム、全2頁	2020. 11
口頭発表（単）	「学習指導要領の法的性格の変容—大綱的基準・イデオロギー・行政手続法」Second International Conference on Fundamental Issues of Constitutional and Administrative Law、モンゴル国立大学主催、2019年3月22日、モンゴル国立大学	2019. 3
口頭発表（単）	「日本の国立大学法人の財務と大学の自治—財政による管理統制—」国立台湾師範大学第2回国際シンポジウム、2018年12月6日、国立台湾師範大学	2018. 12
口頭発表（単）	“ <i>The Demise of Japanese bureaucracy</i> ”, International Conference on Fundamental Issues of Constitutional and Administrative Law、モンゴル国立大学主催、2018年10月8日、モンゴル国立大学	2018. 10
口頭発表（単）	「アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム—多様な教育手段を駆使することによる職務と博士課程教育の両立—」日本比較教育学会大会第54回大会自由研究発表、平成30年6月24日、広島大学	2018. 6
口頭発表（単）	「グローバル化の中で進められるコンピテンシーに基づく教育と道徳の教科化」2015年7月4日、日本カリキュラム学会第26回大会自由研究、昭和女子大学	2015. 7
口頭発表（共）	「分かち合い、共に未来を創造する子どもの育成—二領域カリキュラムで見方・考え方を育む指導と評価の在り方—」黒	2014. 6

	田拓志、磯田文雄、石井英真、根津朋実、2014年6月28日、日本カリキュラム学会2014年大会、関西大学	
口頭発表(単)	「市民社会の動態の中のカリキュラムー政府の意図とカリキュラムの実態ー」2014年6月29日、日本カリキュラム学会2014年大会自由研究、関西大学	2014.6
口頭発表(単)	「政治思想史から見た教育課程行政ーなぜ“ゆとり教育”は社会の支持を得られなかったかー」2013年7月6日、日本カリキュラム学会2013年大会自由研究、上越教育大学	2013.7
口頭発表(単)	「教育行政と現場主義ー教育行政と教育現場の乖離ー」2011年7月17日、日本カリキュラム学会第22回大会自由研究、北海道大学	2011.7
口頭発表(単)	「社会の変革期と大学経営」2010年9月4日、大学行政管理学会第14回研究集会講演、國學院大學	2010.9
口頭発表(単)	「社会の転換期における学校教育ー教育課程への影響ー」2010年7月4日、日本カリキュラム学会第21回大会自由研究、佐賀大学	2010.7
口頭発表(単)	「小中一貫教育についてー文部科学省の立場からー」2009年7月11日、日本カリキュラム学会第20回大会公開シンポジウム、千葉大学	2009.7
口頭発表(単)	「教育課程に関する法制の変化と学習指導要領」2008年7月6日、日本カリキュラム学会第19回大会自由研究、鳴門教育大学	2008.7
口頭発表(単)	「教育行政過程の二つの事例分析ー政治主導はどう変化したかー」、2007年7月7日、日本カリキュラム学会第18回大会自由研究、埼玉大学	2007.7
口頭発表(単)	「日本：国立学校特別会計と国立大学法人化」2006年9月17～18日、日中高等教育財政会議、北京大学	2006.9
口頭発表(単)	「カリキュラム改訂のスピードとその効果について」2006年4月28日、『韓国・中国・日本の国家教育課程改訂の現状と展望』韓国カリキュラム学会、ソウル、大韓民国梨花女子大学	2006.4
口頭発表(単)	「カリキュラム行政と教師のカリキュラムをつくる力」日本カリキュラム学会第16回大会公開シンポジウム、2005年6月17日、『揺れ動くカリキュラム行政とカリキュラムを創る教師の力』東京学芸大学	2005.6
口頭発表(単)	「チャータースクールとカリキュラム研究ー市場原理と学校づくりの二面性ー」2004年7月、日本カリキュラム学会第15回大会自由研究、愛知教育大学	2004.7

口頭発表（単）	「日本におけるチャータースクールの可能性」、2003年11月8日、アメリカ教育学会第15回大会公開シンポジウム、東京学芸大学	2003.11
口頭発表（単）	「研究開発学校制度の変遷とカリキュラム研究—量的拡大と質的变化がもたらす影響について—」2003年7月5日、日本カリキュラム学会第14回大会自由研究、上越教育大学	2003.7
口頭発表（単）	「国レベルでの「基準」の開発」2002年7月6日、日本カリキュラム学会第13回大会公開シンポジウム「カリキュラムをつくる—誰が創り、動かし、変えるのか—」、九州大学	2002.7
口頭発表（単）	「新しい学力観に立つ教育の推進」2000年7月8日、日本カリキュラム学会第11回大会公開シンポジウム『新学習指導要領の総合的検討』、京都大学	2000.7
